

6 - 2 ユニバーサルキャンプボランティア事前研修会

平成18年9月2日～3日

1 ねらいとその達成状況

事業項目・区分 (現代的課題等)	障害のある青少年への支援を行う事業 ボランティア学習の推進を目的とした事業		
事業のねらい (学習要求や必要課題等)	ボランティア活動に関心を持っている社会人・学生・高校生等を対象に、企画事業「ユニバーサルキャンプ」の企画・立案・準備等を通じて、福祉ボランティアについての知識・技術・心構えを身につける。		
ねらいの達成状況 (参加者の変容等)	福祉ボランティアに有効な実習を体験したり理論を学ぶことにより、ユニバーサルキャンプに向けて参加者の意識がさらに高まった。参加者からは「障害のある方の視点に立ち、考えていきたい」といった旨の意見・感想等が出され、概ね所期の目的を達成できた。		
参加者のアンケート 結果(満足度)	事業全体 運営	100% 100%	プログラム 職員の指導・助言 96% 100%

2 企画・立案

事業の必要性 (理由・背景等)	高齢社会を迎え、高齢者あるいは障害者等に関する福祉活動の実践が求められる時代である。ボランティア活動をとおして福祉領域に関するスキルアップの必要性と次代を担うリーダーの育成が喫緊の課題である。		
ニーズの把握状況	当施設の法人ボランティアから福祉に関する事業に対してボランティア活動をしたいというニーズがあった。同時に、当施設における法人ボランティア養成の目的にも適う。さらに、キャンプ協会からキャンピングフォーオールの理念実現のニーズがあった。		
ねらいとプログラムの 関係	ユニバーサルキャンプを実施するに当たって、必要とされる知識・技能を養うことのできる実践的な研修をする。さらに、専門的な知識を有する実践者や障害がありながら第一線で活躍されている方の話をとおして、福祉に関する活動への心構えを養う。		
主なプログラム (タイムテーブル)	第1日		
	時 間	プログラム	活動内容概略
	10:30～11:00	開会式	オリエンテーション等
	11:00～12:00	アイスブレイク	
	13:30～14:00	コンセプトの共有	
	14:00～15:00	講話・実習	ボランティアとしての接し方
	15:00～17:30	講話・実習	手話の学習と実践
	19:00～21:00	講話・実習	実践的救急法
	21:00～22:00	ミーティング	ユニバーサルキャンプの分担
	第2日		
	時 間	プログラム	活動内容概略
	9:00～9:30	諸連絡	法人ボランティア登録等
	9:30～10:30	ミーティング	グループ別
	10:30～12:30	グループ別作業	介助班・運営班・食事班等
13:30～14:30	ミーティング	ユニバーサルキャンプに向け	
14:30～15:30	閉会式	ふりかえり	
事業の改善点 (継続事業のみ)	この事業をユニバーサルキャンプの事前研修と位置づけ、「福祉に関する知識・技能を養う」と目標を明確にさせた。		
企画・立案体制(関係機関・講師との連携等)	ユニバーサルキャンプの共催団体である群馬県キャンプ協会に実行委員を依頼し、事業のねらいを共有化し、プログラムデザインについても、スタッフ間でコンセンサスを得た。		
募集人数の設定基準	ユニバーサルキャンプの参加者(保護者・引率者は除く)1人にボランティアを1人必ず付けることを考慮し、30人と設定した。		
実施時期の設定理由	ユニバーサルキャンプの事前事業と位置づけ、キャンプ実施2週間前に設定した。		

3 参加状況等

募集人数・募集対象	募集人数：30人 募集対象：社会人，学生，高校生
参加者数(申込者数)	参加者数：37人(申込40人)
参加者内訳	高校生：3人，学生：22人

参加地域	社会人：12人（20代7人，40代3人，50代1人，60代1人） 設置道県：27人， 設置道県以外：10人（内訳：栃木県1人，埼玉県2人，東京都2人，茨城県4人，千葉県1人）
広報活動	開催要項・チラシの配布及び掲載（関東地区の社会教育施設・都道府県教育委員会等・青少年教育団体・各種学校・WEB上・新聞・広報誌等）
参加費	3,000円
運営担当者	企画指導専門職：4人

4 事業実施

ねらいの周知・方法 （参加者・講師・職員）	参加者には，WEB上でねらいや当日の内容を確認できるようにした。さらに2次案内によりねらい等を周知した。講師・実行委員と職員とはメール・電話等のやりとりや事前の打ち合わせにおいて，ねらいを共有化した。
参加者の学習状況 （学習内容・方法）	福祉ボランティアとしての素養を身につけるための実習を多く取り入れた。その一方で，あらかじめ希望する班を調査した上で班分け（食事，運営，資材・介助）を行い，自主的にミーティングに入れるようにした。
日程運営 （スケジュール）	アイスブレイク，講義，体験学習，班別ミーティング等が効果的に学べるプログラムとなるように日程を作成した。
学習環境 （施設設備・教材資料等）	屋内・屋外どちらにも活動実施可能なセンター棟を，ベースの会場として設定した。班別作業においては，ユニバーサルキャンプ当日のメニューに則して調理するため，屋根付き広場なども活用した。また，全体で研修内容を確認したり新情報を共有したりする上で，掲示黒板などを活用した。
健康・安全対策	安全管理マニュアルに基づいて活動中の安全対策を実施した。緊急体制については事務室待機職員と連携し，スタッフ全員で手順を確認した。会場になるセンター棟には水分補給のコーナーを設け，参加者全員の体調管理に配慮した。
講師・関係機関等との連携 （ボラ等を含む）	講師より依頼された物品等（毛布，印刷物など）を事前に用意するとともに，実施前に会場点検して安全対策を講じた。また，事業のねらい，雨天対応も含めてのプログラム内容，その進行予定，安全対策等を確認した。

5 事業実施後の評価や普及

参加者の評価 （アンケートの自由記述等から）	「障害のある方の視点に立ち，考えていきたい」「ボランティアとしての接し方は，互いの人間関係において築いていくものと思い知らされた」などと，研修成果を今後のボランティア活動に活かしたいという感想が多く聞かれた。
講師・関係機関等の評価	参加者のモチベーションが高く，自ら進んで活動する姿に，今後，福祉ボランティアとして活躍してくれる可能性を強く感じたとの評価を得た。
職員の評価 （企画段階から関わったボラ等を含む）	講師や実行委員との共通理解に努め，参加者の立場を考慮した運営をすることができた。この研修会を経て，24名の法人ボランティア登録がなされた。学生が多かったので，次代を担うリーダーとして活躍することが期待される。
事業報告の状況	WEB上に事業報告を公開した。所内にも報告の掲示をした。また，法人ボランティアを対象にボランティア通信を発行した。
普及実績 （計画・予定を含む）	関東近県より福祉ボランティアに関心をもちつつ青年が多数参加しているため，各分野・各地域での教育的効果が期待される。
事業後の反応 （参加者・普及先等）	今回の参加者から，法人ボランティアとして新たに24人が登録し，企画事業ならびに施設等整備に協力していただいている。その後の企画事業では，講師から高い評価をいただいております，今後の活躍・普及が期待できる。

6 その他の特記事項（成果等）

<p>本事業は，新規ボランティアの養成という側面とユニバーサルキャンプの事前準備・ミーティングといった側面があった。「二兎を追う者は一兎をも得ず」といった懸念があったが，それは杞憂であり，「一挙両得」といった趣をなした。とりわけ，24人の新規法人ボランティアが登録されたことは特筆される。しかし，「ユニバーサルキャンプの事前準備・ミーティングにより傾斜させるべきである」といった意見も出た。</p> <p>今後は，講師・実行委員・ボランティア三者のニーズに十分配慮した研修事業として，さらに見直し，より多くの人々が充足感を深められるような事業を実施することを検討したい。</p> <p>今回の講師：社会福祉法人「あかぎの響」施設長 柳井元子氏， 手話サークル「サルビアの会」代表 川岸志津江氏他3名 桐生市赤十字安全奉仕団長 羽鳥勉氏</p>
